



いわて・みやぎ・ふくしま No. 8 便り

2019 年
12月20日発行

日本生協連
組合員活動部

「いわて・みやぎ・ふくしま便り」No.8をお送りします。

今年も各地で様々な支援活動が展開されました。

新しい年が皆さまにとって良い年でありますように。



8年間のボランティア活動に感謝して



いわて生協では、東日本大震災後の2011年6月よりコープボランティアセンターを立ち上げ、ボランティアバスの運行や仮設住宅集会室等での「ふれあいサロン」を続けてきました。ふれあいサロンはあと2ヶ所まで減り、ボランティアバスの運行も田老町漁協での支援のみとなり、活動に一定の目途がついたことから、これまで活動を支えてくれたボランティアのみなさんにお集まりいただき「ボランティア感謝のつどい」を開催しました。

写真でこの8年間の活動や活動場所の現在の様子を紹介し、その後ふれあいサロン、バスボランティア、ふれあいサロン用キットづくりの各ボランティアの代表からのスピーチ、ボランティア活動先やふれあいサロン訪問先からのビデオメッセージなどももらい、活動を振り返りました。久しぶりに顔を合わすボランティアや自分が関わった活動先の今の様子をみて、懐かしい話に花が咲きました。

この8年間でふれあいサロンは3,621回開催し、のべ16,198人のボランティア、バスボランティアは183回実施し、のべ6,593人のボランティアにご協力いただきました。



11月30日に盛岡市内のホテルで開催し県内各地から84名が参加しました。



ひつまみ隊 岡山県と広島県へ



12月3日～5日、昨年に続き、西日本豪雨で被害に遭った方がお住まいの、岡山県と広島県でひつまみのお振る舞いを行いました。東日本大震災では全国のみなさまからたくさんのご支援をいただきました。その恩返しをしたい、仮設住宅で不便な暮らしを送っている方々にあたたまっていただきたいと「ひつまみ隊」5名が向かいました。

岡山県では、おかやまコープさんにご協力いただき、コープ総社東の集会室で開催の「ほっとカフ

エィンコープ」(おかやまコープ、社協、NPOの共催)と、倉敷市の柳井原仮設住宅で実施しました。はじめて「ひつつみ」を食べる方も多くたくさんのおかわりもありました。参加者からは「はじめて食べた『ひつつみ』もおいしいけど、こんなに蜜が入ったリンゴは初めてで、とてもおいしいです！」と喜ばれていました。

広島県では生協ひろしまさんにご協力いただき、昨年も訪問した呉市の天応仮設住宅で開催。昨年のことを覚えていてくださった方もおり、この間の様子についてもお話ししました。



おかやまコープ、コープ総社東で開催の「ほっとカフェ in コープ」の様子

岩手から参加したメンバーは「生協ひろしまの『お好み焼き隊』」のみなさんが、こんなに遠くからお越しになり活動していたことにあらためて驚くとともに感謝でいっぱいです。今回はわたしたちが少しでもこの間のご支援に対する恩返しをすることができ、よかったです」と言っておりました。



呉市の天応仮設住宅にて。生協ひろしまのボランティアさんも一緒に作りました！

※ひつつみとは岩手や青森南部地方に伝わる具だくさんの汁で、寒い時期に食べる家庭料理です。小麦粉の生地を引っ張ってちぎることから「ひつつみ」と呼ばれています。ツルツとなめらかで喉ごしが良い「すいとん」のようなもの。



いわて生協被災地支援活動助成金 10団体に247万円



いわて生協では、2016 年度から岩手県内で復興支援活動に取り組む団体へ、「被災地支援活動助成金」を助成しています。支援活動団体では資金不足から、活動縮小や撤退せざるを得ないところも増えています。助成を行うことにより、被災者のくらしやコミュニティ作りなどに貢献してほしいと取り組みをはじめ、今回で4回目となります。

この助成金は全国の生協のみなさまにご協力いただいている「くらし・地域復興応援募金」といわて生協組合員の「震災復興支援募金」を財源としています。毎年10団体、1団体30万円を上限に助成を行っており、今年も10月に募集を行い、13団体から助成申請がありました。

審査委員会を経て、12月17日に釜石市で助成金贈呈式が行われ、10団体へ総額247万8,100円を助成しました。贈呈式では、「助成金も活動をするうえで非常に助かりますが、それ以上に、このように自分たちの活動を地域で認識してもらい、支えてもらうことがそれ以上に嬉しいです」などの感謝の声寄せられました。今回までの4回で、のべ41団体に計1,048万7,640円の助成となりました。



11月30日に盛岡市内のホテルで開催し県内各地から84名が参加しました。



ローリングストックを広める取り組みを行っています



みやぎ生協では、震災時の経験から、くらしの中に備える習慣を取り入れてもらえるよう、ローリングストックを広める取り組みをすすめています。

11月10日に仙台国際センターで開催された「仙台防災未来フォーラム」では、約520の方に試食提供とリーフレットの配布を行ったほか、11月16日には公益社団法人仙台青年会議所主催の「仙台JC防災フェス」にも出展しました。試食は「乾燥ごぼうのサラダ」を提供し、災害時にも手軽に食物繊維が取れることをアピールしました。

また、2社のテレビ局からローリングストック紹介の依頼があり、みやぎ生協店舗を収録会場に、理事が出演して、ローリングストックの重要性をお伝えする機会となりました。



仙台防災未来フォーラムの様子



仙台 JC 防災フェスの様子



東日本放送「突撃ナマイキTV」収録の様子



ミヤギテレビ「OH!バンデス」放送時の様子



コープぎふのみなさんが来訪されました



10月26日～28日、コープぎふの組合員と役職員のみなさん計22人がスタディツアーで来訪され、福島県沿岸部～宮城県沿岸部（山元町、名取市閼上、仙台市荒浜）などを視察しました。

宮城県に入られた10月27日は、1日のうちに3市町8か所の震災遺構や慰霊碑などを回るハードスケジュールでしたが、行政区ごとに異なる復興の取り組み方を知っていただくことができ、多くの質問や意見が交わされました。本当にありがとうございました。



山元町では、バスに貼られた被災前や当時の写真も見ながら現状を学びました。



関上の記憶では、当時の映像や語り部の方のお話に涙を流される方もいました。



丸森町災害ボランティアセンターへ全国の生協から支援いただきました

みやぎ生協では、台風 19 号の被害を受けた丸森町の災害ボランティアセンターの運営支援として、10 月 26 日～12 月 1 日まで毎日 1 人を事務局として派遣し、土日祝は増員して対応してきました。11 月 10 日～30 日には、日本生協連を通して全国の生協に呼びかけ、15 生協から 5 日間ごとに 4 人ずつ計 20 人のみなさんが運営支援にいらしていただきました。全国の生協のみなさん、本当にありがとうございました。



支援活動スタート時の
打ち合わせの様子

【応援いただいた生協のみなさん】

ユーコープ、富山県生協、コープぎふ、トヨタ生協、東海コープ事業連合、コープしが、コープみえ、京都生協、コープこうべ、こうち生協、コープおおいた、生協くまもと、ララコープ、コープおきなわ、日本生協連



社協・支援団体の方々と第 5 タームのみなさん
(活動最終日)



丸森町で炊き出しを行いました



11 月 9 日、JA みやぎ仙南丸森支所前にて、JA 新みやぎみどりの田尻産直委員会と協同で、炊き出しを行いました。避難所に避難している方だけでなく、近隣の在宅避難をされている方などに、焼き肉やごはん、きのこ汁、あんこ白玉など約 180 食を召し上がっていただきました。山形県の大谷果樹園のみなさんからのリンゴの提供もあり、こちらも大変好評でした。次回は 12 月 14 日に予定しており、今後も月 1 回をペースに、めぐみ野生産者や JA などと協力して実施を予定しています。



炊き出しの様子



福島復興のシンボルとして「夜の森のさくら」を植樹

11月7日（木）コープみえ桑名センターの敷地内に、桜の名所である福島県富岡町「夜の森のさくら」の苗木を植樹しました。植樹式では、富岡町長と桑名市長からメッセージをいただいた後、富岡町在住の北崎一六氏からコープみえ大野智佳子副理事長へ苗木が贈呈されました。

苗木は日当たりのよい道路沿いに植えられ、出席者40人全員で土をかけました。「夜の森さくら」は富岡町夜ノ森地区に2キロにわたって続く桜並木です。今も富岡町に戻れない人・応援する人の心を一つにと、コープふくしまが橋渡し役となって行っている苗木の植樹は、今回で25か所目となりました。三重県では今回が初めてとなります。

植樹式後には交流会を行い、北崎氏からは「富岡町の現状」、日野公代組合員理事からは「震災後コープふくしまが取り組んできたこと」について報告がありました。北崎氏は震災直後に埼玉県へ避難した後、福島県郡山市の仮設住宅に移って自治会長を務め、2017年に富岡町の自宅に戻られています。またコープみえの組合員・役職員3名からは、福島県の被災地視察で見聞きしたこと、感じたことを自生協の組合員や知人にどのように伝えてきたか等の報告がありました。交流会では、コープみえの組合員さんがお茶を点てて振舞ってくださり、グループに分かれて三重と福島の産物を食べながら交流しました。

コープみえでは2012年より、夏休み期間に福島県の小学生を三重県内に招待する「福島の子ども保養プロジェクト」を行っています。また、組合員さんに募集して行う「つながりカレンダー」はとても好評です。福島復興の地の方々も毎年楽しみにしています。12月は2020年の「つながりカレンダー」を届けて頂くことになっています。



北崎一六氏より、コープみえ副理事長
大野智佳子さまへ手渡された苗木



植樹された苗木と共に集合写真



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告 ～山形県 天童温泉 湯坊いちらく～

開催日 2019/10/19 (土)～20 (日)

保養先 山形県 天童温泉 湯坊いちらく

参加者 8 家族 (大人 12 名 / 子ども 17 名)、スタッフ 4 名



1 日目

・わくわくランド

わくわくランドでは小雨のため外遊びができず、屋根のあるステージで様々な遊び（ボール遊び、なわとび、缶ぽっくり、輪投げなど）を行いました。その一方で、肌寒かったため足湯で温まる人達もあり、台風 19 号の被害で断水が続いていた、いわきの親子は特に嬉しそうでした。断水により洗濯ができないため服を汚せないなど、苦労話をされていました。限られた場所での遊びでしたが、参加者は親子一緒に楽しそうに遊んでいました。

夕食時の自己紹介では、翌日のいも煮会を楽しみにしている方が多くいました。今回初めて参加した 3 家族にコヨットを知るきっかけを聞いてみると、「友だちに教えてもらった」「子育て広場で紹介してもらった」「フリーペーパーでの企画案内を見た」とのことでした。



2 日目

・いも煮会

2 日目は晴天。いも煮会の会場である馬見ヶ崎河川公園へ到着すると、公園はすでに家族連れ、友だち同士、職場仲間とたくさんの人達が集まっており、山形県民のいも煮会に対する熱い思いを感じました。そのような中、共立社のスタッフの方々が、いも汁作りをしながら待っていてくださいました。参加者は、いも汁ができあがるまで親子で遊具やドングリ拾い、散歩などを楽しみました。前日は屋外で思いきり遊べなかったため、子ども達は大はしゃぎで走り回っていました。紅葉し始めた木々の中、秋の日差しを浴びて遊ぶ子ども達は、みんな良い笑顔を見せていました。いも汁は牛肉が入った醤油味で、皮をむいた里いもが丸ごとゴロッと入っていました。他にもおにぎり、焼きいも、りんご、飲み物を味わい、締めにかレー味のうどんを食べてお腹いっぱい大満足でした。また、自然の中で開放的な気分になったのか、いも汁を食べる頃には参加者の皆さんが打ち解け合い、仲良しになっていました。帰りは「アンパンマン」の DVD を観ながら帰りの途につきました。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

